

水稻のセジロウンカ防除について

岡山県病害虫防除所の調査によると、セジロウンカが県内の広い範囲で発生しています。圃場によっては、今後、生息密度が高まることが予想されます。圃場を見回り、株当たりに寄生する虫数が10頭を超える場合には防除を行ってください。

1. 情報提供の根拠

- (1) 7月6～8日の巡回調査によると、発生圃場率は72.2%と平年(31.1%)より高く、捕虫網20回振りによる本田すくい取り虫数は20.0頭と平年(14.6頭)よりやや多かった。
- (2) 赤磐市の予察灯において4月から7月2半旬までの飛来数は100頭で平年(115.4頭)並であったが、7月3半旬にまとまった飛来が確認された。

2. 防除対策および防除上の参考事項

- (1) 本虫の予察灯への飛来状況から、本年の防除適期(次世代幼虫発生期)は7月6半旬～8月1半旬頃と推測される。
- (2) 防除薬剤は表1の単剤、あるいはその成分を含有する混合剤を使用する。混合剤は含有する成分によって使用基準が異なるので、ラベルをよく確認する。
- (3) 粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分到達するように散布する。
- (4) 薬剤散布に当たっては農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用する。また、圃場周辺に薬剤が飛散しないよう十分注意する。最新の農薬登録情報は農林水産消費安全技術センターホームページ(アドレス <http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>)で確認できる。

表1 水稻におけるセジロウンカの主な防除薬剤

薬 剤 名	農 薬 使 用 基 準		
	使用時期 (収穫前日数)	使用回数 (対象剤のみ)	希釈倍数または 使用量/10a
バッサ粉剤DL ¹⁾ バッサ乳剤 ¹⁾	バッサ剤は混合剤の1成分なので、バッサ剤を含有する各混合剤の使用基準を参照		
トレボン粉剤DL ^{1) 2)} トレボン乳剤 ^{1) 2)} トレボン粒剤 ^{1) 2)}			
アドマイヤー水和剤	7	2回以内	2000倍
アドマイヤー1粒剤	7	2回以内	3 kg
MR. ジョーカーEW ^{1) 2)} MR. ジョーカー粉剤DL ²⁾	14 7	2回以内 2回以内	2000倍 3～4 kg
ベストガード水溶剤	14	4回以内	2000～4000倍
ベストガード粒剤	14	4回以内	3～4 kg
アプロード水和剤	7	4回以内	1000～2000倍
アプロードフロアブル	7	4回以内	1000倍
アプロード粒剤	21	4回以内	3～4 kg
スタークル(アルガリン)粉剤DL	7	3回以内	3 kg
スタークル(アルガリン)粒剤	7	3回以内	3 kg
スタークル豆つぶ	7	3回以内	250～500 g
ダントツ粉剤DL	7	3回以内	3～4 kg
ダントツ水溶剤	7	3回以内	4000倍

¹⁾ 水産動植物に対する危害が発生しやすい地域および発生するおそれのある地域では使用しない。

²⁾ 連用を避け、全栽培期間での使用回数は2回以内とする。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239